

こ みち
教育の小径

【今月の花】
クリスマスローズ
【花ことば】
いたわり・慰め

今月の記念日 紙の記念日(12月16日)

紙は私たちの暮らしにとってなくてはならないものです。明治8年12月16日、東京の王子に作られた「洋紙」を作る工場が開業式が行われました。王子には、川が流れていたため、紙の生産に必要な水が得やすく、原料や製品を運搬するのに便利なところでした。



国士舘大学教授
北 俊夫先生

今月の
テーマ

評価規準とそのつくり方

- 評価規準は、目標に準拠して評価する際の観点別のものさしである。子どもの学習状況を分析的にとらえるためのものである。
- いたずらに細かな評価規準を作成することを避け、妥当性と信頼性のある評価規準を作成するために、近隣の学校と協力して作成する方法もある。

なぜ、観点別に評価するか

わが国では、現在の指導要録が学級簿と言われていた昭和30年ごろから、子どもの学習状況を分析的にとらえる観点別評価と、それらを総括的にとらえる評価(評定)とが併用して行われてきました。

子どもの学習状況を観点別に評価するのはどうしてでしょうか。私たちが物事をとらえるとき、漫然と見るのでは、表面だけが見えたり、一面的だったりして、その対象を深く理解することができません。予め視点や観点を設定して観察することによって、より深く正確にとらえることができます。見学の視点をもって工場を見学することと同じです。

一本一本の木を丁寧に観察することによって、森がどのように成り立っているのかを把握することができるようになることと同じです。木を観察することが観点別評価です。森をとらえることが総括的に評価することに当たります。

森を分析的に観察する際のものさしが「観点別の評価規準」です。判断するときによりどころになるものです。これは単元(題材)の目標の実現状況を観点別にとらえるものですから、目標に準拠した内

容を設定することになります。

どこに問題があったのか

これまでも各学校では教科等の評価規準づくりに取り組んできました。ところが、多くの時間と労力を費やしてきた割には有効に活用されていないという指摘があります。せっかく作成した評価規準が使われないのではもったいないといふことがあります。どこに問題があったのでしょうか。

まずは、評価規準が細かすぎたことがあげられます。評価規準と評価基準が混在し、評価を煩雑にしていました。また、学校として作成する評価規準が実践と結びついていなかったことも指摘できます。1単位時間の評価規準は、子どもの実態や指導の実際によって変わることがあります。そのため、学校として作成したものが使えなくなることがあります。学校として作成する評価規準は、単元や題材のレベルにとどめ、1単位時間は指導者の責任で作成することが考えられます。

また、「おおむね満足できる状況」を評価規準として設定します。これをもとに、これ以上か、これ以下かを判断することができます。

これまででも、評価規準が「細部にわたって設定され、結果としてそれを数量的に処理することに陥りがちであった」と指摘されてきました。

これからの評価規準の作成に当たっては、簡素で、何よりも日常的に活用できるものにすることが大切です。

評価規準づくりに工夫を

小学校では来年度から教科書が新しくなります。これからの学習評価で活用する評価規準は、次のように作成する方法が考えられます。

同じ教科書を使用する学校では、単元や題材の構成が基本的に共通しています。そこでは、ほぼ共通した単元や題材の目標が設定されます。評価規準は、この目標に準拠して設定され、その内容が大きく違うことはありません。

このことから、近隣の学校や市(区、町、村)内の学校と協力し、分担して作成する方法が考えられます。このことによって、作業が軽減され、教師の負担感を取り除くこともできます。そして何よりも、作成した評価規準の妥当性や信頼性を高めることにつながります。特に小規模校において取り入れたい方法です。

作業的な活動は体験的な活動と同様に、子どもが学習に主体的に取り組むようになるとともに、学習内容の定着を図るために重視されている学習活動です。様々な教科等で取り入れることが求められていますが、ここでは社会科における作業的な活動を考えます。

社会科では、「作業帳」といった教材を用意したり、教師がワークシートを作成したりして、従来から白地図や年表などに地名や出来事を書き込んだり、色を塗ったりする作業が取り入れられてきました。かつては、土器や立体地図や地球儀を作製する作業も行われました。ところが、最近こうした作業的な活動が見られなくなったという声が聞かれます。背景には、時間が掛かりすぎることや、費用がかかることなどがあるようです。書く、描く、製作する、表現物を作るなどの作業には個人差があるだけでなく、予定以上に時間がかかります。

1年間をとおして計画的に取り入れたい、家庭学習との関連を図ったりしながら、作業的な活動を積極的に取り入れたいものです。作業的な活動は、知識の定着を促すだけでなく、構想力や表現力などの能力をはぐくみます。グループで作業することによって、友だちと協力して取り組む態度を養うこともできます。

始業時に設定されている「朝の会」の時間はせいぜい10分程度ですが、活用の仕方次第で重要な時間帯になります。進行は、教師が行う場合と、日直の子どもが行う場合があります。

「朝の会」にはその日の学校生活を目的をもって、楽しく意欲的に送ることができるようにするというねらいがあります。そのためには、教師が笑顔で明るい表情で接するよう心がけることが大切です。

「朝の会」は教科のような授業時間ではありませんが、その日の授業と深いかわりがある時間です。教師はまず子どもたちの出席を確認し、一人一人の健康状態を観察します。

そのあと、その日の連絡事項や必要

な注意などをします。係の子どもから連絡させることもあります。月ごとに「学級の歌」を決めて、合唱することもよいでしょう。これには子どもたちの気持ちをひとつにまとめるという効果があります。読書や漢字の練習、計算ドリルなど教科の学習と関連した内容を取り上げることもできます。ニュースを取り上げて「3分間スピーチ」を実施することもできます。

「朝の会」の運営にも、担任のアイディアと力量が表れます。



教育キーワード 生徒指導提要

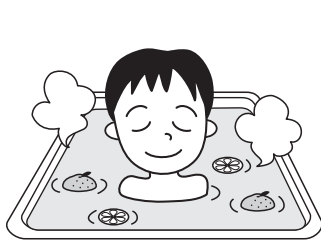
文部科学省から「生徒指導提要」という名前の、学校・教師向けの生徒指導の図書が公表されました。本書は、生徒指導に当たって教員間で共通理解を図り、学校として組織的、体系的な生徒指導を積極的に進めていくために活用することができます。問題行動への対応のためだけではなく、

本書は、「生徒指導の意義と原理」、「教育課程と生徒指導」、「児童生徒の

心理と児童生徒理解」、「学校における生徒指導体制」、「教育相談」、「生徒指導の進め方（児童生徒への指導、個別の課題を抱える児童生徒への指導）」、「生徒指導に関する法制度等」、「学校と家庭・地域・関係機関との連携」の8つの章から構成されています。

また本書では、小学校における生徒指導についても対象ととらえ、必要に応じて書き分けられています。

学級通信に使える今月のイラスト



冬至



年賀状書き

編集後記

今号はそろそろ各学校で取り組みが始まる「評価規準」を特集しました。新しい評価規準では、北先生も述べられているように「細部を数量的に処理すること」に陥るのではなく、「簡素で日常的に使える評価規準」であることが肝要だと思いました。(H記)

Information (PR)

指導資料 PART32
小学校児童指導要録

新刊 解説と記入方法 Q&A

指導要録作成の
方法がわかる!

- ◎監修 梶田 叙一
- ◎編著 古川 治
- ◎企画・編集 財団法人
総合初等教育研究所
- ◎定価 1,200円(税込)
- ◎発行 株式会社文溪堂

A4版・128ページ

